

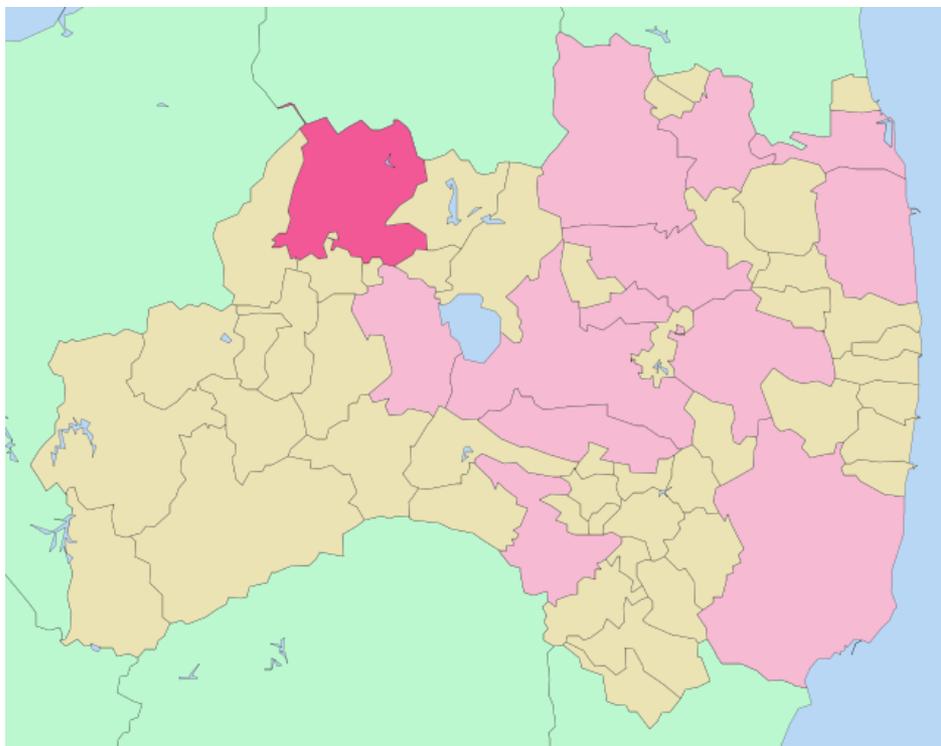
すべては未来の子ども達の 幸せのために

NPO法人まちづくり喜多方

平成25年12月13日

喜多方市について

(人口・面積・産業別人口)



50km

●福島県喜多方市

福島県北西部に位置し、会津盆地の北半分を占める。

•人口: 50,348人 (平成25年11月現在)

•面積: 554.67km²

(東京23区の面積 621.98km²)

•産業別人口

第一次産業 2,159人

第二次産業 6,953人

第三次産業 9,291人



喜多方市について

(まちの特色)



●福島県喜多方市

蔵とラーメンのまちとして、全国的に知名度がある。

- ・喜多方市の蔵の数
約4,200棟(人口比日本一)
- ・喜多方市のラーメン店数
約120店舗(人口比日本一)
- ・喜多方市の酒蔵数
9蔵(人口比日本一?)
- ・観光客 年間180万人



平成18年の市町村合併を契機に、蕎麦のまちとしても知られるようになった。

(秋～冬にかけて市内各所で、蕎麦まつりが開催されている)

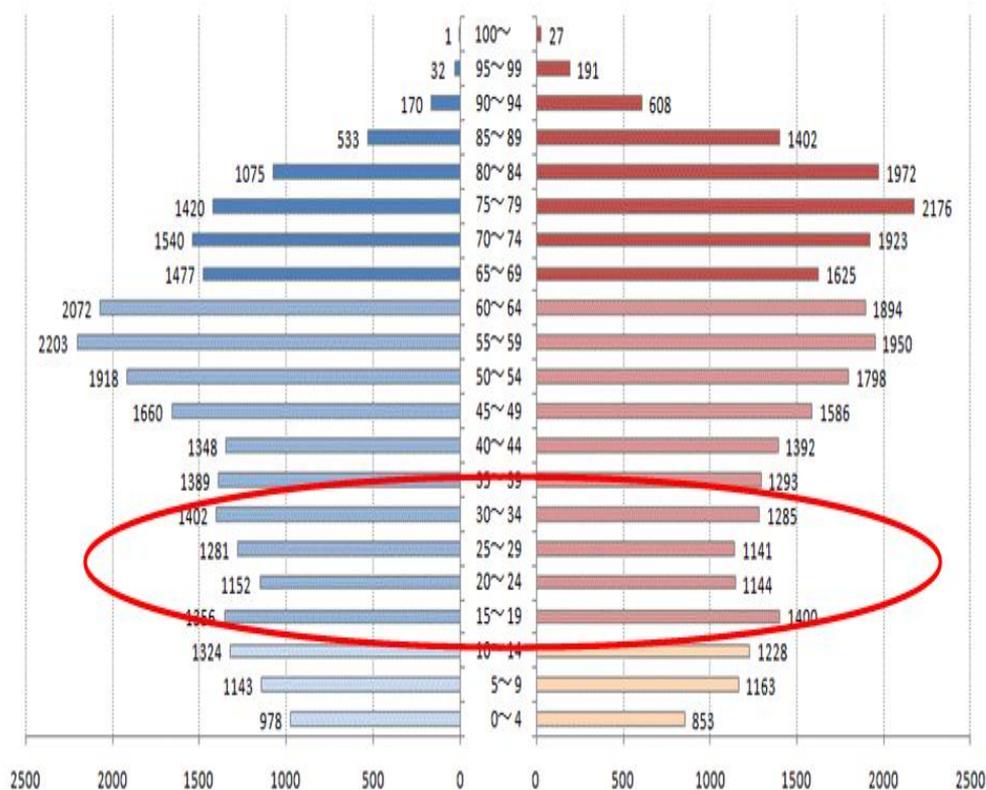


喜多方市が抱える課題

(=殆どの人口10万以下の地方都市)

少子高齢化から人口減少時代へ

喜多方市の人口ピラミッド (平成22年7月現在)



昭和30年 … 81,000人

昭和50年 … 61,000人

平成17年 … 56,000人

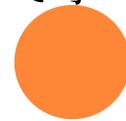
平成24年 … 51,000人

(年間約2%の人口減少率

しかし、世帯数は増加)

人口減少は深刻な問題であり、
子供の数は左の表のとおり、20
代の人口が極端に少ないため、
人口は減少の一途を辿っている。

若者が働ける場と、安心して子
育てができる環境が必要。



NPO法人まちづくり喜多方

(設立～目で見えて分かりやすい環境保護)

【平成17年 環境ストレンクス設立】

当初「目で見えてわかりやすい環境保護」をキャッチコピーに「環境ストレンクス」という名称で、主に自転車タクシー「ベロタクシー」の運行を行うNPOとして活動。

【平成19年 まちづくり喜多方へ】

ベロタクシーを活用した観光交流事業が数多くメディアで取り上げられ、市内経済人達からもっと活動の幅を広げ、地域のための活動を行ってほしいという要望を受け、「まちづくり喜多方」と法人名を変更。

【平成23年】

NPO法人を立ち上げ、代表理事であった「江花圭司」が市議会議員に立候補、30代ながらトップ当選を果たし代表を辞任。ベロタクシー運行事業も法人事業から移譲。

3月、東日本大震災が発生。NPOの主たる事業がふくしまの復興へ。



NPO法人まちづくり喜多方

(地域コミュニティの再生へ)



平成22年より 農コミュニティカフェろくさいの運営を行い、コミュニティ・ビジネス、ソーシャル・ビジネスの研究、実証実験を行っている。

また、内閣府の委託事業である「日本一の蔵再生によるまちづくり」など事業を拡大。

平成23年の東日本大震災以降、風評被害の払しょく活動、大学と市民のための学び場づくり事業、喜多方における漆器産業の後継者育成事業など活動の幅を広げている。

事業決算額

平成21年 20,000千円

平成22年 22,000千円

平成23年 48,000千円 (震災復興事業)

平成24年 26,000千円



震災以降の取り組み(1)

アセスメント活動

会津地方で活動しているNPOやボランティア、まちづくり団体が協働で避難者に対するアセスメント活動を開始し、阪神大震災の際にボランティア活動にあたった方々をお招きし、今後の避難者の支援活動について、貴重な情報を入手しました。この時のミーティングが、現在も活かされています。



元気玉プロジェクト 2011.3.17(明天)

「避難者と復興は、時間とともにニーズが変わり、いつまで続くか先のわからない状況であって、根気のいる活動になる。」

認識しなくてはいけないのは、『自分たちも被災者だという真実』焦らず、投げ出さず、地に足をつけて地道な活動を続けていって下さいと励まされました。



震災以降の取り組み(2)

風評被害払しょくの為の物販事業

平成23年11月～平成24年3月
(継続中)



会津エリアでは風評被害による、観光客の減少が深刻な問題となりました。まちづくり喜多方では、その対策として8名を雇用し、東京都内でゲリラ的に物販事業を展開しました。

喜多方を代表する物産品の販売と観光案内パンフレットの配布を実施、27か所のべ96日間(走行距離24,000km)



震災以降の取り組み(3)

地域循環型除染事業(自力除染)

現状の除染方法の問題点

- (1) 土壌を大量に剥ぐ、高圧洗浄水で洗う。(除染ではなく移動。)
- (2) 大量の土砂の保管場所の確保。(現在は、住居エリアに積み上げブルーシート。)
- (3) 国の予算で大手ゼネコンに委託。除染ビジネス。(他人事。こっそりと河川に投棄する。)

喜多方市の場合、空間線量の平均が **0.23 μ Sv/h** 以下であることから自治体は**除染しない**ことを選択。

行政の限界と、我々の役割が明確になった。



アスファルトのメジに入り込んだ放射性物質を、シュウ酸、クエン酸の泡を吹きかけ、洗濯糊で固め、剥離することによって放射性物質を除去する。



2013年10月 発行

- (1) 簡単に
- (2) 確実に
- (3) 廉価で
- (4) 自分の手で

福島市でシンポジウム
行健除染Net.
郡山市のボランティア
除染グループ。



震災以降の取り組み(4)

福島実証モデル事業(太陽光発電所)

自力除染を推進するために、太陽光発電所を建設(196kw:一般家庭65軒分)



うつくしま太陽光発電所 (平成25年12月竣工)

発電した電気は、全量東北電力に売電。(20年間)売電で得た収益を、人材育成、地域での企業、自力除染の費用に充てて行く。

喜多方市内の出資者55名から、資金を調達。地元金融機関からの融資、建設費9,000万円。



震災以降の取り組み(5)

旅人コンサルタント(課題解決の為の連携事業)



実際に開催された旅コンの様子

たくさんの地元住民の皆さんに、**復興の夢**をもった主人公に成長してもらうこと

それぞれがもつ具体的な夢を**実現に向けて課題**を明確にすること

たくさんの旅人の皆さんに**夢を共有**してもらい、そして**仲間**になってもらうこと

夢の実現に向けて、たくさんの人たちに**アドバイス**を与えてもらうこと

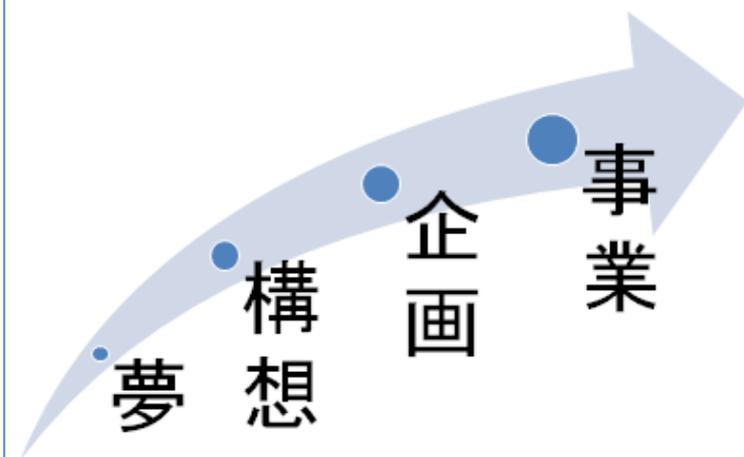


旅人コンサルタント

新しい支援の形・新しい連携の仕組み



いろいろな進捗段階がある
地元住民の「個別プログラム」



- 農家民宿『若草物語』経営
- 4人の娘さんの母
- 会津木綿で熊倉活性化
- 今夜の宿舎
- 囲炉裏で旅コン！

本当の会津木綿
復活プログラム



猪俣まさえさん

学生旅コン WAVOC



復興活動の変化



● 共通課題

- ・食料、生活必需品、住居等避難生活に欠かせない共通の課題

● インフラ・コミュニティ

- ・借上げ住宅での生活、地域住民との連携、学校生活、働く場

● 実害除去(除染)

- ・会津においては、風評被害は大きなダメージ(観光業、農産物、喜多方ラーメン等)

● 課題の多様化

- ・郷里に戻る、戻らない。二重生活。避難の長期化。避難先住民とのトラブル。DV等

● 連携

- ・はま・なか・あいづ。福島と福島外。避難者と地域住民。NPOや様々な団体。長期にわたる復興活動の為には、さまざまな連携が必要。



ふくしまの課題は日本の課題

(ふくしまの課題を丁寧にひとつずつ是正していく)

- ・少子高齢化
- ・過疎地域、限界集落
- ・地域コミュニティの喪失
- ・経済格差
- ・非正規雇用
- ・政治、経済の一極集中と地方の衰退
- ・文化、伝統行事の継承
- ・伝統工芸技術者の後継者不足
- ・年金の破綻
- ・様々な課題の先送り



論点はひとつだけ

「すべては未来の子ども達の幸せの為にあるのか？」
「未来にツケを回す」のではなく「未来に財産を残していく」
それが、経済的な豊かさと利便性を追い求めてきた私達の責任。